

血糖コントロールに係る薬剤投与関連

区分別科目



(A) インスリンの投与量の調整

病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (1) (ペーパーシミュレーションを含む)

国際医療福祉大学市川病院 教授

野見山 崇 氏

演習

病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 1

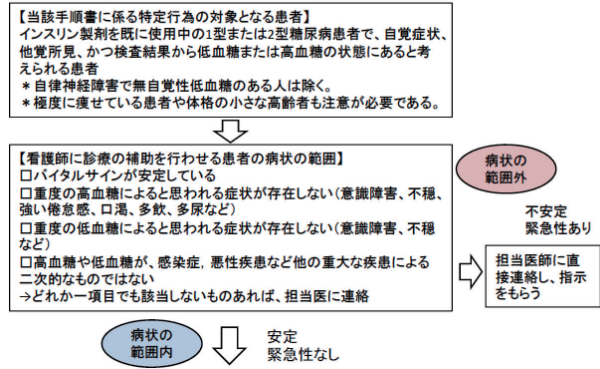
国際医療福祉大学市川病院 教授
野見山 崇

本日の内容

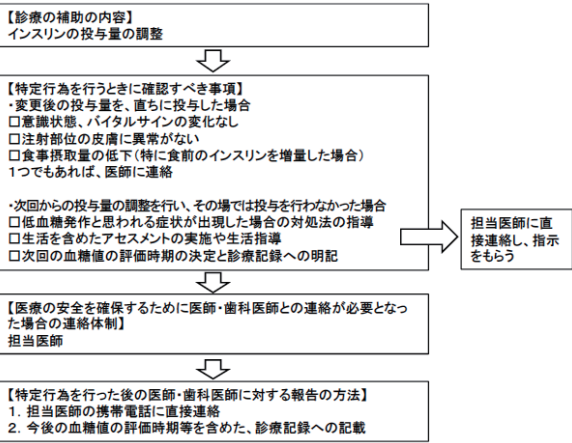
- 目標
- ・責任インスリンを理解し、インスリン製剤の調整ができる
- 内容
- ・症例提示を行い、各施設で作成した手順書に基づいてインスリン製剤の調整を行う

インスリン製剤の調整の判断基準例

手順書:インスリンの投与量の調整



インスリン製剤の調整の判断基準例



問題 1 強化インスリン療法中のインスリン調整

症例:65歳 男性 2型糖尿病 BMI 23kg/m²
40歳のころから健診で高血糖を指摘されていたが放置していた。45歳の時、HbA1c8.0%となり妻の強い勧めで糖尿病外来を受診しダオニール®(スルホニル尿素薬)による治療が開始された。HbA1cは徐々に低下し、コントロール良好であったが、2年前より再度悪化したため、入院し血糖コントロールとなった。

来院時検査所見:HbA1c 8.2%, 空腹時血糖 155mg/dL, 血清Cペプチド 0.7ng/mL, 肝機能・腎機能に異常なし

合併症:単純性網膜症、腎症第2期、神経障害なし

問題 1 強化インスリン療法中のインスリン調整

入院後、経口血糖降下薬(ダオニール®)を中止し、強化インスリン療法を開始した。
現在、ヒューマログ®を朝食直前10単位、昼食直前6単位、夕食直前8単位に加え、ランタスXR®を眠前に4単位注射している。最近3日間の血糖の推移は下記のとおりである。

	朝食前	朝食後	昼食前	昼食後	夕食前	夕食後	眠前
①	156		178		160		190
②	160		180		164		200
③	162		178		162		220

問題2

入院後、経口血糖降下薬(ダオニール®)を中止し、強化インスリン療法を開始した。
現在、ヒューマログ®を朝食直前6単位、昼食直前4単位、夕食直前2単位に加え、ランタスXR®を眠前に8単位注射している。
最近3日間の血糖の推移は下記のとおりである。

	朝食前	朝食後	昼食前	昼食後	夕食前	夕食後	眠前
①	172		130		120		200
②	180		150		130		196
③	178		160		128		220

問題3

入院後、経口血糖降下薬(ダオニール®)を中止し、強化インスリン療法を開始した。
現在、ヒューマログ®を朝食直前10単位、昼食直前2単位、夕食直前6単位に加え、ランタスXR®を眠前に10単位注射している。
最近3日間の血糖の推移は下記のとおりである。

	朝食前	朝食後	昼食前	昼食後	夕食前	夕食後	眠前
①	130		128		160		182
②	126		124		170		196
③	128		122		180		220